

令和元年度 第3回 釧路市まち・ひと・しごと創生推進会議 議事録

日時: 令和元年11月12日(火)

午後1時30分～午後2時20分

場所: 釧路市役所 防災庁舎5階
災害対策本部室

1. 開会

・「釧路市まち・ひと・しごと創生推進会議 設置要綱」第6条第2項の規定により、
委員11名中7名出席につき、過半数の委員の出席があったため、当会議成立を確認。

2. 副市長あいさつ

3. 議事

(1) 第2期 釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 たたき台について

・事務局より【資料1】「第2期 釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 たたき台」をもとに説明

委員より説明内容について質問あり

<以下、質疑応答【◎…議長 ○…委員 ●…オブザーバー ■…釧路市】>

- 行政が作る計画書としては及第点なのかと思う。非常によくまとまっていると思うが、問題はせっかく作った戦略をどう具体的な行動に移していくかというところであり、例えば地域を支える人材の確保という35ページに書いてあるところだが、就労希望者への市内企業情報提供というところで、これは今どういう形でやっているかはわからないが、これだとこの実績にある通り、現状73件程度に留まっている。これをU I Jターンを推進する上でどのように拡大していくのか、また今までの推進事業だけでいいのかというような、そういった事業のブラッシュアップなり見直しということがこれからどう図られていくのか、考え方としてあればお願いしたい。
- ちなみに就職希望者への市内企業情報提供数、釧路企業情報に掲載している数、釧路人材育成プロジェクトに参加している企業の数というところで、この2つを足したものであるということでK P Iを設定している。
- 例えば商工会議所の青年部で全部の市内の高校生にアンケートをとったところ、市内に就職したいという希望が非常に多い。進学する生徒を除いて。ただそれが実際そうっていないのは、釧路の企業をあまりにも知らなさすぎるということがあるということが一つの結果として出てきている。そういう意味ではこれは青年部の単独事業だが、釧路の企業ガイドブックみたいな形で作って、全部の高校生又は中学生等に配ろうと、そういうことで地元の企業を知ってもらうということを今企画している。行政とこれは一体となってやったほうが、より効果的にできると思うので、今まではこうだったではなくて、さらにどうやればより効果的な取り組みができるのかということ、一緒に考えていただきたいと思う。
- これまでも会議所とか、教育委員会とか、そういったところと連携しながら、キャリア教育について取り組んでいこうということで、様々なご相談もさせていただいているかと思う。先ほどご説明した通り、新年度の予算の

中で、今検討しているようなこともあるので、今のご指摘も踏まえて、より効果的な事業をやっていけるように、しっかり取り組んでいきたいと思う。まさに人材の確保の部分、育成の部分というのはまち・ひと・しごとの非常に重要な要素になると思っているので、そこをしっかり取り組んでまいりたい。

■ 補足だが、市内の事業所の情報という部分をどう若い人たちに伝えていくか、既にこれは市でも取り組んでいる部分では、基本構想の中でも議論があったが、今の若い方々、それから帰って来られる方が成人式等で集まった時に、地元の企業情報という部分を市側の方でも、式典に合わせて回付をして、釧路での暮らしぶりや、事業所でどういう取り組みをしているか、というようなことを生活のスタイル、あるいはお仕事のスタイルだとか、そういうことを総合的にパッケージにして情報発信をさせていただいている。そういった中で若い方々が、様々釧路に就職の機会があるという情報を得た上で、その後の人生設計の中に役立てるというような形をとっているの、掘り下げて会議所との連携の中でもそういった高校生の方々と一緒にそういう情報共有をする場面、また小学生の部分での取り組みもあるが、小さなうちからキャリア教育という観点から、地域のことを知ってもらう、それを心掛けて取り組んでいる部分もある。

○ 20歳のつどいに配るあの情報誌は非常にいいと思う。収入は当然地方都市の方が低いのに、可処分所得は実は多いということが、行政らしからぬ表現で非常に出来栄がいいと思うので、我々もより掲載企業が増えるように、頑張っていきたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

○ 今のと関連しているかもしれないが、例えば38ページの介護人材の確保のところ、確かに介護人材が不足している状態となっていて、様々な事業もやっているが、実は最近こんな話があった。求職者、仕事を求めている人はそれなりにいるけれども、求人側、すなわち仕事を出すほうの求人票がその人がたの目に留まらないような求人票しか書いていない、求人票の書き方が悪いというような話が合って、社会福祉協議会では今回そういう人を使って、どんな求人票を出したらいいのかということをやろうとしている。それがどんなものなのかははっきりわからないが、仮にそういったことが本当であれば、いい仕事があるにも関わらず、出し方が悪いから人が集まらないということにもつながることがもしかしたらあるのかもしれない。というのが一つある。

これは余談だが、もう一点。防災の関係で、47ページのKPIの中で釧路市防災総合訓練の参加者数が書いていると思うが、これはどちらかという関係機関が集まっている防災訓練である。これは関係機関の連携が必要だからそれなりに参加者数が集まらなきゃならないというのはよくわかるが、というよりももっと言うと、各町内会でも防災訓練と避難訓練をやっている。特に3.11以降一瞬こういった機運が高まった。そしてまた今回の台風で色々となかなかの大切さというのが重要視されてきている中で、各町内会の避難訓練の回数や参加者数を増やしていくということが重要な指標になるのではないかと思う。

■ これまで関係課で検討しているが、今のご意見も踏まえて、防災の担当と相談させていただきたいと思う。

○ 一番最初の基本的な考え方の総論をお話させていただいている部分で、まず港湾の重要性を付け加えていただいて感謝する。最後に確か若い人たちが増えないことにはだめだというのが書いてあって、23ページの太字で書いてあるところ、線が引いてあるところで、最も重要であると書いてあって、これはやはり、まち・ひと・しごととか、まちづくり基本構想とか、若い人たちが釧路に帰って来て、

ここに住み続けていくこと以外に、将来的に釧路のまちづくりはない、発展はないということが、一番ベースにあるという部分がここに表されているのではないかと思います。その個別の目標として27ページ以降基本目標があるが、この最も重要という部分がやはり一本他にも表れているとか、底流に流れている感がもうちょっとあってもいいのではないかと思います。若い人たちに戻ってきてほしいという部分で言えば、36ページで先ほど発言のあった、保護者や子どもに対して情報提供を行っていくとあるが、正直なところこの一文で、若い人たちを繋ぎ止めるというのはちょっと弱いと思う。もう少し市が、今の説明の中では取り組んでいることがたくさんあるようなので、そういったもっと帰って来てほしいということをより強く、この期間の中で取り組んでいくということを表現してほしいと思う。

もう一つはまちづくりの中で、人口が減っていく中では、コンパクトなまちづくりを目指していかなければいけないということが書いてあったと思うが、それと防災というのは関連していると思っていて、やはり人口密度が分散化すればするほど、お互いの協力体制も弱まってしまうし、助け合うということも難しくなってくる。市としても取り組むことが広範囲にわたってしまって、どうしても短い時間で防災の取り組みを完了させることが難しいのではないかと考えている。そういった部分も安心して暮らせるまちづくりという部分ではとっても大事なことだが、先ほど言っていたように、どういふふうにしていけばそういったまちづくりができるのか。ただ防災訓練をすればいいということでもないだろうし、取り組みをもっとどうすればいいのか、前に会議をしていた中で、大楽毛の人たちに防災の観点から平地で済み続けることの危険性を訴えても、ここで死ぬ気だからいいんだという言葉が返って来るという話も聞こえてきて、そういう気持ちをいかに切り替えていく取り組みをするか、というのが地方自治体として大切だと思うので、その辺のことをもう少し取り入れていただければと思う。

- 今のご指摘は前段の若い世代に定着していただきたいという強い思いを、通しで見えていけるようにというご指摘であったが、思いとしては表現はしていると思っていて、実際に何が必要かというところ、やはり経済の活性化というか、働いて稼いでいただけるという、そういった環境づくりといったものが大事だということで、そこに取り組むというのはこれからも変わらないところである。あとは表現としてどういったことができるかというのは、今すぐお答えはできないが、最後残された時間の中でそういうメッセージや表現を少しでも加えられればいいのではないかと思います。また防災の観点については、これはあくまでまち・ひと・しごとの部分であるが、一方で基本構想の各分野別施策の中で防災の観点というのは受け止めている部分もあり、そういった役割分担というのはあるので、そこはご指摘を踏まえ、まち・ひと・しごとにもふさわしいような表現ができるのかというのは、今のご意見を確認させていただいて考えたいと思う。今はこう書くとお答えできないが、ご意見を踏まえて検討させていただきたい。

- K P I の関係で2点ほど教えてほしいことがあるが、37ページの移住定住の促進と関係人口の創出のK P I でU I J ターンの推進による就職者数。現状値が平成30年度が9名で、目標が累計で25人となっているが、これは30年度単年で9人ということであれば、5年間累計で25人となると、少し少ないような気がするが、年々変動はあると思うが、前の年やその前の年がかなり人数が少なかったために平均5人としたのか。

- U I J ターンの就職者数は第 1 期でも K P I として設定しており、平成 2 7 年が 4 件、平成 2 8 年が 9 件、平成 2 9 年が 9 件ということで、平均すると 7 件から 8 件なのかなと思うが、この 2 5 件というのは地方創生推進交付金の中にも k - B i z を中心とした取り組みの中で、U I J ターンの就職者数というのを掲げているところであり、そちらと整合を図るためのものでもあるので、2 5 件とさせていただいた。少ないという印象は受けるが、そのような整理をさせていただいている。
 - もう一点、4 7 ページのコンパクト・プラス・ネットワークの推進の中で、K P I の真ん中辺の町内会の新規入会戸数が、現状値がなしとなっているが、これは今まで把握してなかったということか。
 - こちらは町内会の協力が今回から新たにさせていただけるということで、担当課の方から新規入会戸数が把握できるようになったということで連絡をいただいて、新たに K P I を追加させていただいたということになっている。
 - 全体の加入数というのは都度押さえているが、個別の町内会単位でそれぞれ進捗を追っていくことが今回から可能になったということである。
- ページで言うと 3 5、3 6 くらいになるが、現場で色々やらせていただいている関係でお話をさせていただきたいと思う。女性求職者就労促進事業というのを平成 2 6 年から関わらせていただいている。今年ちょうど 5 年目になる。3 5 ページの青く囲まれた下の方に、現状値が昨年度 1 1 名の就職者で、これからの 5 年間で 5 0 人ということだが、過去 5 年関わらせていただいて、すごく感じるころだが、事業の内容が最初は女性就職困難者就労促進事業であった。女性は就職困難者であった。それこそ表現がどうなのかなということで、女性求職者就労促進事業になったのだが、その言葉の裏にあるのは就職したい人というのが、本当に少なくなった現状がある。5 年前は小さな子どもがいるとか、介護の家族がいるとかで、本当に外で働きたいが、働ける環境にないとか、そういう人たちが受講生のほとんどだったが、今年も受講生を抱えていて、1 1 月の末ぐらいに卒業になるが、1 5 名いるうちの 1 1、2 名が起業、いわゆる自分で仕事を興すことを希望されている。今は専業主婦という形だが、何かをやりたいといって自分でスキルを磨いたりとか、資格を取ったりとか、色々なことをやっている。それと先日の会議でも少しお話をさせていただいたが、その中で半分以上は転勤族の奥様たちである。その転勤族の方が市内でどうやって楽しく、せっかく居住したまちをいかに楽しむかということをしごく考えて転勤して来られるが、転勤前からまちの状況を知りたくて色々ネット検索だとか、色々やってもとにかくその情報が得られない。釧路市に住むんだったら、子育てしているとしたら、どの辺が、学校が近いかとか、スーパーが近いかとかを調べたいが、どうもまったくわからないし、子育て支援のつてが何もない。今年の 4 月から少し出てきたようであるが、そのような情報発信が何もないというので、がっかりして来られる。ただ私どもでやっていたスクールからの卒業生が転勤族の奥さんで、その人たちが今や転勤族の妻のバイブルと呼ばれるような動きをしていて、そのコミュニティに聞けば色々なことがわかるということで、こちらに転居する前からそこにアクセスをして知る。その人たちがまた転勤して行ってしまう。ここのまちにいるうちにそういう情報発信だとか、子育てだけでなく住みよいまちづくりのために、民間の普通の主婦がやっているものを、何らかの形で吸い上げていただけるとうれしい。
- 未来の 5 年間で、過去と同じように考えてもなかなか難しい。数値化して表さなきゃならないというのは、理解はしているつもりだが、実際特に女性の場合は、柔軟に対応するとか、時代に合わせると

というのは適当かどうか分からないが、そういうような形の方がいいと、実際過去5年やってみて感じた。その時その時に合わせて、起業就労者がまだ増えるかどうか読めないところだが、単純に就職数が何人というような感じではなかなか表現はできないと感じている。

またものづくりとかを支援する、k-Bizも含めて、ものとかを支援するという表現もあったかと思うが、特に女性支援をしていて感じるの、見えるものではなくて、コミュニティだとか、いわゆるサービス。そういったものに対して、お金が発生するというようなことに関する起業というのがすごく多いので、それを何らかの形で表現というか、そこにも目の目を当てていただけないかと思う。

- おそらく商業労政とかの事業の部分で、これからそういうまち・ひと・しごとには書けないような気の利いたサービスというか、きっとそういったものがあるというお話なので、これから事業構築するときに、計画は別にしても、事業をつくっていくのに、よりそうやっていった方が施策も進むのではないかということでしょうか。
- そうである。担当レベルではそういう話はあるが、市民みんなが見る文章の中で、何らかの表現の仕方がないものか。
- 情報発信というか、すごく気の利いた情報をいかに伝わっていくかというのが、どういう形で発信していけるのか、そのことで本当にやろうとしていたことが進んでいくというご指摘だと思うので、予算の事業を作っていくところの世界なのかという気もしている。
- いつも思うのは人口の半分は女性であるということ。
- 施策の具体の中身への書きぶりというよりは、取り組みへの反映ということも含めて、関係課と話を続けていきたいと思う。
- 先ほど町内会の新規入会戸数の話が出ていたと思うが、防災の面でも町内会単位の取り組みというのが、これからは大事になってくるとは思うが、どこに聞いても町内会は入会者数が少ない。特に若い人が入らない。どんどん高齢化して行って、色々な活動もできないという話をよく聞くが、新規入会戸数がこれから数値を明確にして、増やしていくという方向かと思うが、このためにどういうことができるのか、どういう形で後押しを市としていく計画なのかというあたりを聞きたい。
- 町内会の参加促進というのは、様々な形で既に市としても進めているところだと思う。今回改めて町内会のご協力を得ながら、掌握できるようになっていったということ踏まえて、今やっていることを、総合戦略にも位置付けがあるということをよく知っていただきながら、もっと広げていけるような取り組みをしていきたいと思う。ご意見いただいた部分は共有しながら相談していきたい。
- ◎ それではご意見は出尽くしたと思うので、皆さんの意見を市にお伝えしたということで議事は終了とする。以降、進行を事務局にお返す。

6. 閉会

(了)